

第 48 期(2019 年度)

事業報告

自 2019 年 4 月 1 日

至 2020 年 3 月 31 日

公益財団法人 資生堂社会福祉事業財団

I. 事業概要

全国の児童相談所における児童虐待相談対応件数は増加の一途を辿り、子どもたちが直面する現実は一層深刻さを増しています。当財団では児童養護施設をはじめとする児童福祉に携わる実務者をサポートすることで子どもの成長を後押しするための活動や、社会的養護下におかれた子どもたちのスムーズな自立を応援する活動、児童養護施設や里親の元で暮らす児童の進学を支援する活動、児童福祉に関する出版を通じた社会に向けた啓発活動等を実施しています。

II. 活動一覧

当財団は、研修、助成、啓発の3つを事業領域としています。2019年度は以下の内容で実施しました。

(1) 研修事業

① 児童福祉分野で働く職員に向けた海外研修

資生堂児童福祉海外研修は1972年の開始以来、児童福祉業界の中核人材を約700名輩出しており、児童福祉領域におけるリーダーの育成や業界全体としての専門知識の底上げに寄与しています。2019年度はポーランド・ベルギーにおいて第45回研修を実施し、14名が参加しました。一方、東アジア児童福祉職員交流研修は、社会的状況を考慮して2020年度以降に開催を延期することとしました。

資生堂児童福祉海外研修	実施日 2019年10月1日～10月15日 研修国 ポーランド、ベルギー テーマ 子どもの権利
-------------	---

② 児童または青少年に向けた研修

児童養護施設や里親のもとで暮らす子どもたちが、自立してからも地域社会で安心・安定した生活をおくるための生活スキル習得や、コミュニケーション力を高める研修を行っています。児童からの参加希望が年々増加していることから優先順位の高い活動と位置づけ、協賛企業と協働しながら活動を進めました。

身だしなみ講座	実施日 2019年8月～2019年12月 場 所 全国3地域 内 容 社会人として相応しいスキンケア・メーキャップ、ボディケアに関する講座を開催し、165名が参加
スターターズセミナー	実施日 2019年7月～2019年12月 場 所 全国7カ所 内 容 自立生活に必要なコミュニケーションやビジネスマナー、身だしなみ講座等のセミナーを開催し、のべ261名が参加
社会への巣立ちフェスティバル	新型コロナウイルスの感染症拡大の影響により開催を中止しました。

(2) 助成事業

① 個人・団体に対する助成

社会的養護に置かれている子どもたちを支援する団体の中から、当財団の目指す方向性が一致する団体の活動へ助成を行っています。なかでも、当財団の資生堂児童福祉海外研修のOB会から結成された「NPO STARS」は、現場や子どものことを最も熟知した人材が多数所属する集団で、STARSとの連携は当財団にとっても重要であることから2019年度も継続して助成しました。

STARS セミナー	主 催 NPO STARS 開催日 2019年7月6日(東京)、2020年2月22日(大阪) 場 所 スペースFS夕留(東京)、資生堂大阪ビル(大阪) 内 容 子育て家庭を孤立させない～施設の多機能化～(東京) ケースカンファレンスのファシリテーター講座(大阪)
家庭養育機能支援 子育てワークショップ研修会	主 催 日本キリスト教児童福祉連盟 開催日 2019年9月2日～5日 場 所 資生堂湘南研修所 内 容 基調講演、ロールプレイング研修
全国児童家庭支援センター協議会 実務者研修	主 催 全国児童家庭支援センター協議会 開催日 2019年7月10日(東京) 場 所 TKP品川カンファレンスセンター(東京) 内 容 家族支援のあり方、里親養育包括支援(フォスタリング)の概要、子ども家庭総合支援拠点の一部受託に関する先進実践事例の報告
児童虐待防止に向けた セミナー・イベント	児童家庭支援センターが主催する「子育てセミナー」8カ所、「オレンジリボンキャンペーン」6カ所に助成

② 児童または青少年に向けた助成

児童福祉施設や里親の元から自立し、社会福祉士や保育士など児童福祉分野での活躍を希望して大学・短期大学・専門学校に進学している学生13名に対し、入学金や授業料の一部として年間50万円(上限)を返済不要で支援しました。

資生堂児童福祉奨学金	4年生大学6人、2年生短大3人、専門学校4人、計13人に給付
------------	--------------------------------

(3) 啓発事業

○情報誌「世界の児童と母性」の発行

児童福祉に関する研究発表の場の提供や、児童福祉の現場の課題解決に繋げるための情報提供を目的とする情報誌「世界の児童と母性」を発行しています。1975年の創刊以来、児童福祉分野の有識者や経験豊富な実務者に参画いただき、施設で働く方々への有益な情報を提供してきました。2019

年度も、変わりつつある児童福祉を取り巻く環境を見極め、より時代に合った内容や構成を目指して下記の内容で発行しました。

「世界の児童と母性」85号	「世界の児童と母性」86号
発行時期：2019年4月 発行部数：2800部 特集テーマ：「生命(いのち)の重み」	発行時期：2019年10月 発行部数：2800部 特集テーマ：「甘えと社会的養護」

Ⅲ. 主な活動報告

1. 研修事業

●資生堂児童福祉海外研修

2019年10月1日～10月15日の日程で14名が参加し、ポーランド・ベルギーにおいて実施しました。ポーランドでは、国連子どもの権利条約の原点ともいえるヤヌシュ・コルチャックに関する資料を収集しその内容を伝える「コルチャック研究所」を皮切りに、子どもの権利を守るオンブズマン、命を救うための赤ちゃんポスト、貧困や暴力など家庭内に課題を抱えた家族と子どもへの支援サービス、そして人間の尊厳が失われたアウシュビッツなどを視察・見学し、さまざまなレベルで「権利」について考えました。ベルギーでは、予防から介入、支援と継続的なかわりなど一連の児童家庭政策と支援のあり方を学び、制度、社会、支援の現場で子どもの最善の利益をどう実現するかをより具体的に議論しました。



第45回資生堂児童福祉海外研修結団式 2019年8月27日



ポーランドのコルチャック研究所



ベルギーの出生児童事務所

●スターターズセミナー

群馬・埼玉、茨城、愛知、岐阜・滋賀の4会場で、主に児童養護施設で暮らす高校3年生を対象にのべ261名にセミナーを開催しました。NPO STARS や(株)リクルート、(株)AOKI、資生堂ジャパン(株)の協力により、社会的スキルやコミュニケーションスキル、スーツの着こなし方、身だしなみなどを学びました。



社会的スキルを学ぶ講座



自分の強みを発見する講座



身だしなみ講座

2. 助成事業

●児童虐待防止に向けたセミナー・イベント

児童家庭福祉に関する地域相談機関である全国の児童家庭支援センターが主催する子育てセミナーやオレンジリボンキャンペーン等、合計14のセミナー・イベントに助成を行いました。現在、多くの児童家庭支援センターでは、児童虐待の発生予防や親子関係の再構築支援、心のダメージの回復を目指した専門的ケアを実施しており、家族全体が抱える問題とその急激な変化に寄り添う支援や一人一人の成長に合わせたアフターケア(自立支援)を実践しています。子育てをしている方々と地域との繋がりが少なくなっている現在、同センターが主催する当該セミナーやイベントを通じてセンターを知る機会となること、また子育てに対する不安やストレスを一人で抱え込んでいるお母さん・お父さんたちをサポートする活動に繋がることから2019年度も助成しました。



オレンジリボンキャンペーンの風景

●資生堂児童福祉奨学金

将来、社会福祉士や保育士など、児童福祉分野での活躍を希望して大学・短期大学・専門学校に進学している、主に児童福祉施設出身の学生たち13名の授業料の一部として、年間50万円(上限)を返済不要で支援しました。

3. 啓発事業

●情報誌「世界の児童と母性」の発行

2016年の児童福祉法改正により「家庭的養育」の重視が明確となり、「児童ができる限り良好な家庭的環境において養育されるよう、必要な措置を講じなければならない」と示されたことを受け、法改正のキーワードである「家庭」「地域(コミュニティ)」について改めてきちんと考えるべきとして、4月(85号)は「生命(いのち)の重み」、10月(86号)は「甘えと社会的養護」の内容で発行しました。



情報誌「世界の児童と母性」

以上